



衝撃！ ダイダラボッチ出現！！

この公園は児童遊園と、無料で予約が可能なサッカー・ソフトボール・軟式野球・グラウンドゴルフができる多目的グラウンドがある総合公園になっています。地域の方が集う大平公園に行ってみました。ちょうど「多目的グラウンド」でグラウンドゴルフをやっている方がいました。面白そうですね。いまは、ゲートボールより人気があるみたいです。一回やってみたいです。パターゴルフならやった事があるのですが。

そのとらには「すこやか遊具」があり運動不足の方や体力の維持・改善を必要としている方など誰でも使用することが出来ます。バランスを鍛えたり体を伸ばしたり、すべて行うと8つの効果があるみたいです。

私も最近運動をしていないので(図書館は体力勝負です)、上腕運動を少しやってみました。腕がピリピリしてなかなかいい感じです。イラストで使い方が描いてあるのでわかりやすいですね。3分程続けてみましたが、結構パンパンになりました。もうすこし近ければ、毎日来るのになあ(無料です)。

「将門伝説」は、平将門が武蔵国を視察に来たときに屋形をたてて逗留したというもの。以来、将門の御屋形は「大平家」とよばれ、「大平」の地名の起こりとなりました。

「ダイダラボッチ伝説」は、富士山に腰掛け琵琶湖で顔を洗ったという大男「ダイダラボッチ」の足跡といわれているものです。

各地にその名が残っている「ダイダラボッチ」ですが、埼玉県内では秩父地方での民話が有名です。また、埼玉県西部を中心に足跡といわれる窪地を見ることが出来ます。

大宮景 20景

将門とダイダラボッチの
★平公園
しゃっほー！！

平成18年に市民が選定した「大宮二十景」の第7弾は「大平公園」です。

『将門とダイダラボッチの大平公園』

大平公園には伝説が2つあります。

ひとつは「将門伝説」もうひとつは、「ダイダラボッチ伝説」



Vol.007
2021年6月1日発行
OMIYA LIBRARY

児童遊園では親子が楽しんでいて、そこだけ時間がゆっくりと流れているような気がします。遊具はあまり多くないですがちよつとユニークなものも。網をよじ登ってぶら下がったり、狭いところにかくれたり、色々な発想であそべそうです。まわりを走っている子も多かったですね。

バスケットボールのゴールがあって、3on3をやっているグループやフリースローをやっている中学生もいました。確かに学校以外でバスケットボールのゴールがある場所は少ないですね。まして自宅になんか……。

大平公園は、いろいろな顔を持っている地域に根差した公園ということが、とてもよく分かりました。

取材が終わる帰ろうとすると、大きな雲がこっちに迫ってくる感じで動いていました。こは、やっぱり「ダイダラボッチ」の足跡なのかな！

参考資料
『歴史あれこれー私たちの三橋・上小』
『歴史あれこれー刊行委員会／編／1986』
『絵で語る埼玉の民話』
埼玉県立歴史と民俗の博物館／著／2013



まわれ！
盆

夏が嫌いです。暑いし、日差しは強いし、蚊に食われる。良いところがありません。しかし、そんな夏でも好きなどころがあります。それは祭。盆踊りです。

今回私がご紹介するCDは「こども盆踊り-ベスト-」です。このCDには炭坑節や花笠音頭など昔からある曲から、キャラクターの盆踊り曲まで幅広く収録されています。

一推しは「ズンパ音頭」です。小さいころに聞いた曲なので、歌詞の細かい部分は覚えていなくても「ズンズンズパッパ〜♪」というフレーズで楽しかったという幸せな記憶がよみがえります。この曲は振り付けも楽しいものだったなあと体が自然と動きだします。

紹介したCDの中には収録されていませんが、大宮音頭や浦和おどりだけでなく都はるみさんの「好きになった人」なども地元のお祭りがかかっていてなぜ盆踊りで歌謡曲なのか謎でした。荻野目洋子さんの「ダンシング・ヒーロー」が流れるところもあるそうなので、老若男女あらゆる人が楽しめるように構成されているのでしょうか。

去年はコロナで夏祭りができませんでしたが、今年はどうでしょうか。盆踊りの振り付けを練習しておうち時間を楽しんでみては？



toshstagram
トショスタグラム



♡ 💬 📌

マチ針みたい。

氷川神社
あじさい
蛇の池近くの小道
梅雨が明けたら…。

📖 💬 + ♡

大西民子の一首

民子が、この歌を最初に「形成」で発表した時、「大西さんは小説も書くのか」と驚かれたと回想しています。原稿用紙に小説を書いていたわけではないが、頭ではいつも自分を主人公にした小説を書き続けていたと民子は言っています。

結末をみずからも知らぬ物語

書きつぎて二人を今日は逢はしむ

『不文の掟』より

『ランドマーク』 吉田修一

今回取り上げるのは吉田修一の『ランドマーク』という小説。作家ではなく作品をピックアップします。

はなしは完成すればランドマーク(その地域を象徴するもの)となる架空の巨大ビルOmiyaスパイラルの設計士と九州から上京してきた建設現場作業員の二人を軸に進みます。

作中随所に大宮の景色が描写されており、大宮駅西口のロータリーやそごう周辺の道、今はもうない東口のLoftなど刊行された17年前の大宮を伺い知ることが出来ます。

Omiyaスパイラルがどこに建設中か具体的に記されている頁はないのですが、2021年現在、大宮駅周辺地域戦略ビジョンを元にグラントセントラルステーション化構想として交通広場の再整備や駅前空間の一体性を高める景観の形成を目的とした工事が進められています。この大宮図書館も「人々のクロスポイント」をコンセプトに2019年にリニューアルしました。作品の中の途上段階にある大宮からの変化がまさに実現に向かっていきます。

変わりゆく風景と、鉄道の街として各地から集まり刻々と変わっていく人の流れを、本書を片手に実際の街並みと見比べてみてはいかがでしょうか。

取り扱った本

『ランドマーク』 吉田修一／著 講談社／2004

参考資料

『大宮駅周辺地域戦略ビジョン』さいたま市
『大宮駅グラントセントラルステーション化構想概要版』さいたま市
『UDCOREPORTーまちを紡ぐー#001』さいたまUDCO



先生



※先生は休憩室でおやつを食べています

いやりしる〜大宮井川参道カフェ〜
さいたま市大宮区吉敷町3-48-1
営業時間：10時〜17時（定休日・水曜日）
TEL：048-715-0623



図書館の ご近所さん

図書館を出て氷川参道を新都心の方向に歩いておよそ5分。一の鳥居の近くにあるカフェいやりしるにお邪魔してオーナーの川元麻実子さんにお話をうかがいました。

―去年の冬にオープンしたばかりなんですよ。

はい。ちょうど参道の入口近くにあるので、ここから日本一長い氷川参道を一の鳥居から歩いてもらえるきっかけになったらとの思いでお店をつくりました。

―3月から子供食堂を始められたとか。

はい。学校が近いので、子供たちがひとりぼっちでご飯を食べなくていいようにとの願いからスタートさせました。

子供だけで来たり保護者の方と一緒に来たりして利用していただいています。メニューは毎日来ても飽きないように日々変えています。大人は100円子供は無料で提供しています。

ゆくゆくは高校生が小学生の勉強をみてあげたり一緒に遊んだり交流がうまれば嬉しいです。活動に興味をもって問い合わせをしてくれる方もいるので、今後、きちんとボランティアの育成もしていきたいです。

―野菜の販売もされているんですね。

メニューにも使用しているのですが、これはこのあたりでとれた野菜で、見沼の野菜ってこんなに美味しいんだよってことを知ってほしいし、ご近所付き合いが希薄になっている時代なので農家さんとのつながりをもって畑を手伝いに行ったりできる関係になればいいな。隣人に味噌を借りる感覚で助けあっていたいですね。この場所が若い人と農家さんをつなげることができれば地域の活性にもなると思うんです。

―地域住人の交流の場としてカフェを利用してほしいと。

そうですね。その為に毎月イベントをしていく予定です。キッチンカーを呼んだり、工作教室を開いたり。5月5日のこどもの日には昔ながらのおもちや柏餅をつくるワークショップを開催しました。

ここに来る人達にやりたいことを提案してもらったらどんな実現していくつもりです。人の笑顔を見るのが大好きなので、楽しいことを共有していきたい！

―おすすめの本を教えてください。

『大宮氷川神社と氷川女體神社―その歴史と文化―』と『見沼物語』です。このあたりの土地の成りたちや魅力を知ることができて面白いです。さいたま市のキャラクター・ヌウ君がどうして竜なのかもこれを読めばわかります！

―ありがとうございます！

「今後はお友達を連れてきてもらったりしてつながりを増やしていければいいですね。」と仰っていた川元さん。お話を伺っていてとてもこの土地への愛情がある方だと感じました。暖かいご飯が用意されているお店の常連になったらお帰りのさいと言ってもらえるかも？

紹介した本

『大宮氷川神社と氷川女體神社―その歴史と文化―』野尻靖／著

さいたま出版会／2020

『見沼物語』吉田存則／著

さいたま出版会／1981



着物にふれてみよう！

皆さんは正月の図書館に着物のスタッフが現れたことをご存じでしょうか。素敵なお着物で図書館に花を添えてくれました。私は着ることもできず憧れがあり当日は近くで愛でさせていただきました。

私も着物を着たい。着方もわからないし、持ってもいない。何から取り掛かったらいいかわからない。なので…図書館員らしく調べてみました！

調べてみるとまずは衿、帯、袂など名称が。ことわざとかで耳にはしますね。次は季節によって着るものや格式など着物の種類で小紋、紬、木綿などなど。続いて帯の種類、小物の合わせ方、着崩れしたときの対処法……読んだら知れた気がします！

知識の次は実際に！ ということで、お店に行って着物を見てみました。大宮には呉服屋さんにも着付け教室も複数あり、着物に挑戦しやすい環境といえますね。着物の形になって売られている場合もあるそうですが、行ってみたお店では反物で多くの種類が置いてありました。店員さんがとても親切で、簡単に着たような形に合わせてくれ、なで肩で首が長いのでお着物似合いますよと嬉しいお言葉をもらいながら見せていただきました。決断力のない私なので今回は見せてもらったのですが、お店でやっている着付け教室を紹介してもらいました。店員さんも皆さんお着物で素敵な空間でした。皆さんもお着物いかがですか？ 私はこれから着付け教室でさらに学べます！

『おとなの着物ことはじめ
―難しいこと抜き！今すぐ楽しむ―』
永岡書店／2017
『着物の絵本』高野紀子／著 あすなろ書房／2009

読書本

第6回 テーマ 『妄想』

「妄想」を辞書で引くと「根拠もなくあれこれと想像すること」と書いてあります。根拠もないと言われるとなにやら良いイメージがしませんが、みなさんもよく妄想することがあるのではないのでしょうか？

テレビの向う側の憧れの人と会ったり、過去にタイムスリップしたり、明日起きたら魔法が使える世界になっていたり…色々妄想しちゃいますよね。さて、今回のテーマは「妄想」ということで、乙ーさんの短編小説『Calling You』をご紹介します。

今から20年ほど前に出版された本で、今では携帯電話と言えスマートフォンを思いがちですが、当時はガラケーが主流の時代。

主人公のリョウは、人に話しかけるのが苦手な女子高生。携帯電話を持っていない、クラスメイト達の話題にも入っていけない引っ込み思案な女の子です。クラスメイト達が持っている携帯電話を見るたびに、自分も携帯電話を持ちたい、自分がもし携帯電話を持つならどんなものがいいかと「理想の携帯電話」を頭の中で想像する毎日を過ごします。そんなある日、自分の頭の中で思い描いた携帯電話から着信を知らせるコール音が聞こえ始めます。そんなことはありえないと思いつつ、おそろおそろ頭の中で想像の携帯電話に手を取り着信をとる動作を思い描くと、若い男性の声が聞こえてきて……。

自分の想像で作りあげたのかそれとも実在するのか。想像の携帯電話は顔も知らない「誰か」に繋がりが、いつしかリョウはその人との会話が楽しみのようになっていきます。

今ではSNSが普及し、知らない誰かとの会話なんて当たり前にできる世界になりましたが、ちょっと前までは掲示板や雑誌のペンフレンド募集に応募したりしないと、なかなか自分の身近ではない、遠いところにいる「誰か」と繋がるというのは難しいことでした。

私も学生の時、好きなアーティストのことで周りに話せる人がなくて、色々話したいのに！と悶々と過ごしていたのを覚えています。あの時の私にリョウと同じ想像の携帯電話があったなら、そんな話ができる「誰か」ができたのでしょうか。

身近な友達とは違う、知らない誰かと繋がる。ちょっと憧れますよね。

今回のテーマは「繋がり」です。

紹介した本

『きみにしか聞こえない
―CALLING YOU―』
乙ー／著
KADOKAWA／
角川スニーカー文庫／
2001

紹介者：Rの嫁



「心穏やかにさせるには、思いやりを持つことが大事である。」



去年の晩秋、大河ドラマ「青天を衝け」の主人公であり、2024年新一万円札の肖像となる渋沢栄一（の故郷「深谷市」を訪れました。一面に広がるねぎ畑と農村地帯の風景にあの「資本主義の父」と呼ばれた渋沢栄一が生まれ育ったところがこんななのかなとどこか、と地元の子供たちの走り回る姿に思いを馳せました。日本にはじめて「株式会社」という理念を持ち込み、500近い会社設立に携わった経済人としての渋沢栄一を知る人は多いのですが、彼は、病院や養育院の運営、貧しい人々への援助など社会福祉事業にも情熱を注いだ人でもありました。そして、渋沢栄一が70歳のころに書いた「論語と算盤」で随所に見られる言葉、それが「忠恕の道」であり「まごころ」と思いやりの大切さです。

明治の時代から150年以上経ち、資本主義経済も成熟期をむかえた今こそ、自分の良心に忠実でありながら他者への思いやりの心をもつというこの精神が見直されています。私たちがこれから、より幸せに生きていくにはどうすればいいのかを今一度考えさせられます。

渋沢栄一 関連の本がたくさんあります。長寿だった渋沢栄一にあやかって彼の人生を讀破してみたいいかがでしょうか。

参考図書
『渋沢栄一
算盤編』『論語編』鹿島茂／著
文藝春秋社／2011